令和8年度　高山市立松倉中学校　学校経営の重点及び自己評価　　校長　大坪　稔

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	育てたい資質・能力	基本施策との関わり		本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 （手立てとしてどうか、または達成度はどうか）	評価A～D	分析と改善点
方針・未来社会を創造する資質・能力を身に付け、学び続ける子の育成 重点・持続可能な社会の創り手（高山の未来を担う人材）の育成 郷土教育・キャリア教育・ICT教育・プレゼン教育	①豊かな心、健やかな体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進 ②こどもの自己実現を支える教育の推進 ③学校、地域、関係団体等との協働による郷土教育の推進 ④DXをとりれた教育の推進 ⑤安全・安心で快適な学校環境の整備	人間性豊かで、たくましく生き抜く生徒	対話を駆使して考えを深める生徒	対話から考えを深める学校	①	個別最適な学び・協働的な学びの推進	・基礎基本の定着を図り、対話を成立させるために、一人一人が自分の考えをもつための指導を充実させる。 ・対話の視点や対話の出口を生徒と共有して、「対話」から「議論」へと発展させる。 ・1コマ45分授業とし、生徒自身が仲間と主体的に学ぶことのできる「松盛タイム」を生み出して、有効に活用する。		
					①	仲間と学ぶスキルの向上			
					④	ICTの活用	・プレゼンテーション力の向上を目指して、タブレットでまとめた考えや調べた資料をもとに対話を行う生徒を育成する。		
				一人一人居場所がある学校	① ②	変化を求め、願いをもち、実現に向けて考え、行動する生活づくり	・日常、行事において変化を求めるための目標を設定させ、個別に支援する。 ・生徒の主体性を大切にした生徒会運営を行う。		
					① ②	不登校の未然防止	・一人一人の困り感を理解し、対話を通じて居場所づくりや支援を進める。 ・不登校未然防止に関する職員研修を行う。 ・不登校生徒割合5%以下を目指す。		
					①	いじめを絶対許さない校風づくり	・SCを入れてのSOSの出し方指導など、困り感を表出しやすい環境をつくる。 ・アンケートを2カ月に1回実施して、いじめの有無や、生活内の生徒の困り感の把握に務める。		
				故郷松倉に誇りをもてる学校	③	縦割り活動を核とした校内、校外での人間関係づくり	・縦割り集団で各種行事に取り組む中で人間関係力を育むとともに、寝屋子プログラムといったキャリア教育の場面でも縦割り集団を編成して活動することで、協働のよさを実感させる。		
					③	松倉城を核とした地域探究活動の推進	・生徒会と有志生徒を中心に、国の史跡に指定された松倉城を広める活動に引き続き取り組む。広める方法を高山市文化財課職員と協働しながら考え、実践する。		
					⑤	PTA実行委員と連携した学校環境整備の充実	・実行委員会と生徒との懇談の場を位置づけ、生徒の思いを受けたPTA活動の充実を図る。		

学校運営協議会における主な評価内容	